

花まるたより

2025
110

Hanamaru
Monthly
Newsletter





2025年10月

自分で決める

埼玉県警のなかで近年子どもが生まれて父親になった、またはもうすぐ父親になるという男性職員の方々向けの父親講演会を、ここ数年何度もおこなっています。警察官といえど、父または夫としての役割については当初自信がないのは当たり前だし、真剣に聞いてくれます。招聘して下さっているのは女性職員のみなんです。で、お子さんが花まるの会員で私のファンという女性刑事さんがいつも温かく迎えてくれます。夏の終わり、薄手の新調したジャケットを着ての講演を終え、控室に向かっていると、その刑事さんが「先生、ジャケット新しいですよ」と一言。いやーさすがファンと自称するだけあるな、すぐに気づかれるんだなと感心しました。そして「ええそうです。よくわかりになりましたね」と気取って答えたら「背中に仕付け糸が残っていますよ」との返答。すぐに脱いで確認したら、紺地のベントに白い糸のボタンが二か所ありました。まあずっとこんな調子なので30年連れ添った妻などは表情も変えず「また!?!」の一言でした。まわりに支えられながら一生歩いていきたいと思えます。

さて、Aーによる激変の時代とはよく言いますが、その厳しい現実を思い知らされる場面に出くわしました。経営者のためのAーエージェントを新規開発したYさんに誘われてお披露目の会合に参加しました。まわりは超大企業の社長さんや役員のみならず、やや場違い感を感じながら向学心でやりとりを聞いていました。最初はYさんによる商品説明。これまでのAーと違って「ひらめき」の要素が入っていることや、あらゆる分野の天才・異能がなかに大勢いるようなものになっていること等の解説がありました。実際使ってみたら、そんな視点からのアドバイスが来るのかと驚かされる深く説得力あるものでした。そして、数か月間モニターしたという有名大企業の社長さんの発表を聞いて立ちすくみました。その方はこの新開発Aーに感動し、いまは毎日1時間対話している。そしてなんとそれまでの有名コンサルとの高額契約を打ち切ったと言っています。信頼ある大コンサルよりも、この一台のAーの方が頼りになるというのです。

また、ソフトバンクグループでOpenAIのアルトマン氏たちと協力してグループのAー開発のトップに立つ宮澤弦氏との対

談（花まる子育てカレッジにて配信）で宮澤氏が語っていたエピソードにも驚きました。アメリカでは有名大学のコンピュータサイエンス学科を卒業すると大卒初任給（年収）が数千万円という時代が続いたが、Aーのあまりの進化によって、そこに人が必要なくなり、コンピュータサイエンス学科が最も就職口のない学科になってしまっているという、星新一のシヨートシヨートのような話です。

この二つの話に共通するのは、技術革命のスピードの壮絶さです。私たちは、こんなにも数年先の未来イメージが曇気楼のように消え変化する時代に子育てをしなければならぬのです。

では、どう育てれば良いかを考えるときに参考になるのは、まさにいまのこの大変化のただなかで、活き活きと輝いている人に注目することです。それは、まわりに流されず自分の哲学をしっかり持ち、本質という見えないものをクッキリ捉え、磨き上げた専門性を強みとして活躍している人とも言えるでしょう。

たとえば一人は、前述の最新Aー発表会で、ゲストとして舞台での鼎談に出演して

新刊情報

『1日3分で頭がよくなる！
こども語彙力クイズ366』



高濱 正伸 監修
(日本図書センター)

ことわざ・慣用句・四字熟語・オノマトベ・敬語・数え方・気もちのことば・季節のことば・類義語・反対語など、18ジャンル全366問！
1日1ページの3択クイズで、楽しみながら「ことばの力」を育てることができます。

『子ども教育のプロが教える
自分で考えて学ぶ子に育つ声かけの正解』



庄子寛之 著
(ダイヤモンド社)

子どもへの声かけは親の悩みの一つだ。この本は20年間小学校の教師を務めた著者が、豊かな感性と深い思考を持って、無数の子どもたちの教育に専念した人だからこそ言い切れる「良い声かけと悪い声かけ」を対比しながら教えてくれる。具体的かつ明確で参考になるだろう。

高濱の本棚

いたコテンラジオの深井龍之介氏です。「歴史が好き」というだけならいくらでもい

うですが、好きの度合いと調べ尽くす深掘り力が桁違い。いまや独自の地歩を築き、

私を含む多くのファンに愛されて、有力な企業群からの引き合いもすさまじい状態

です。先日、深井氏と博多で二人飲みをしたときの、ワクワクして心が温まる味わい

は忘れられません。「勉強ほどおもしろいものはない!!」と言い切り、合理的な思考

で正解を出すことはA+がやる時代にあつて、有力なのは「多少の不合理的も飲み込み

ながら人をかわいがり懐かれる親分アニキ文化」×「最新技術の駆使」のようなもの

だと熱弁する。真横にいて心底幸せになるし、エルトン・ジョンの「You're in the world」と歌いたい気持ちになり

ました。

そんな深井氏がどう育てられたか。猛烈な読書家の父親と音楽を愛する母親。一人っ子でありながら「〇〇しなさい」と

言われた記憶がなく、なにをしても評価も批判もしないほったらかしに近い状態だったとのこと

です。出雲高校や九州大学を受けるとか合格したとかを報告してもいつも

「フーン」というような反応だったそう。そこで培われたものは「すべて自分の決めた

通りに生きる」という人生への基本姿勢。何をおもしろく美しいと感じるかに忠実に

従って決定し行動する人になったのでし

た。

子育ての参考になるもう一人は前述(後半事例)の宮澤弦氏。彼の「また会いたい(心温かいとかおもしろいとか)人になる」という慧眼に基づいた子育て哲学は、シンプルで深く、私自身もしばしば引用しています。また友人になって10年以上経ちますが、

ほとんどん要職に昇格しているにもかかわらず、気さくで常に笑わせてくるユーモアセンスが特長です。彼はどう育てられたか。父も母も姉もピアノリストで当然のようにピアノを弾いていたのですが、小学一年

生くらいで苦しくなり「やめたい」と申し出た。するとお父さまは「いいよ。音楽は音を楽しむもの。楽しくないんだったらやめなさい」とおっしゃったそう

です。そうになると自分は自分の道を探さなきゃと真摯にならざるを得ないし、基本なにをやるにしても「自分で決める」ということを繰り返して育ったそう

です。

私が子育て講演で強く訴えるのは、「アレしなさい、コレしなさい」とうるさく口出しをし続ける過干渉ほど残酷なことはない

ということですが、深井氏も宮澤氏もまったくその真逆で「自分で決める人」として育てられたことがわかります。

わが子に激動の時代を生き抜く人に育ててほしいならば、かなり参考になる事例ですね。

宮澤弦氏との対談はこちら



花まるだより 2025年10月号

(令和7年10月15日発行)
編集・発行 株式会社こうゆう
花まる学習会
発行人 高濱正伸
企画・編集 久慈 菜津紀
編集 井坂 敦子・金井 彩・清田 奈南
坂田 翔・高橋 奈穂
デザイン 春日 梨沙・西野 奈布子
印刷 アークランド株式会社

高濱正伸 講演会

父親だから 男性限定

できること

東京 ケーススタディ編 11/16日 10:00~11:30

大阪 総論編 12/7日 14:00~15:30





全国の花まる教室長、約150人をまるっと一年かけて高濱が直接インタビュー！ 高濱による他已紹介「タカタク」で、みなさんの教室長を紹介します。今年のテーマは、「私の極み」！ 本気で挑んだこと、情熱をもって取り組んだことから、教室長一人ひとりを深掘りしちゃいます。サマースクールや雪国スクールで会ったリーダーたちも探してみてくださいね！





非日常的な場所、未知の体験、そこで得られる感動は、豊かな感性を育みます。世界最大級のカルデラを有する火山である阿蘇は、2014年に世界ジオパーク認定を受けました。美しいだけでなく、科学的な価値をもつ自然のなかで、地球の成り立ちを学びながら楽しく過ごします。

▼震災から復活した天守閣・熊本城

歴史



2016年の震災から復興が進む、熊本のシンボルです。2052年の完成を目指して復興中のいましか見られない光景を目に焼き付けます。



広大な草原を渡る風に包まれ、高濱先生のギターに合わせて歌う時間は最高のひととき。みんなの声が重なり、空に響き渡ります。

根が昭和体育会系スポン野郎なので、高校に入学してお目当てのバレーボール部に行ったら「ぬるい!」と感じました。それで野球部のマネージャーになったのですが、みんなで「日本の文武両道を目指そうと決めて、どちらも本気の素晴らしい青春でした。高3の最後の大会では、9回ツアーアウト、「あとワンアウトで勝ち」までいっていたのに、逆転のセンターオーバーヒットを打たれ夏が終わりました。||中村ダイナミック抄手



哲学 ワンオンワン 高濱先生との1on1

バスで、食事のテーブルで、阿蘇の自然で、夜のタカハマタイムなどで、あらゆる場面で高濱先生は子どもたちにフルコミットします。「弱みをさらけ出す」「意見がぶつかったとき、みんなはどうする?」をテーマに話し合ったり、プチ講演「不幸のもと」「人間の脳には、理と情があるということ」を聴いたりする時間があります。



礼儀

高濱先生の生家で茶道体験

「肥後古流」という流派の茶道を体験します。日本のお茶の型を作った千利休の弟子・細川三斎が興した流派で、武士の作法が色濃く残っています。



こんげつ 今月のレインボータイム

【ブロック 何個？】

- ・黄色、水色、オレンジ色のブロックでできた立方体があります。
- ・同じ色のブロックが接することはありません。
- ・白いブロックには黄色、水色、オレンジ色のどれかが入ります。

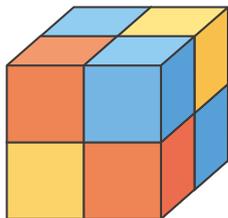


QRコード
読み取り

出題：みずぐち れい
(しえふ)
はな がくしゅうかい
(花まる学習会)

レベル1

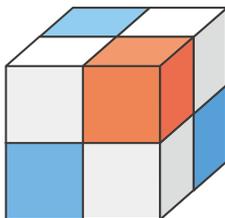
オレンジ色のブロックは何個？



A. 個

レベル10

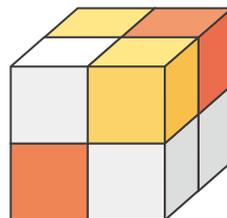
水色のブロックは何個？



A. 個

レベル20

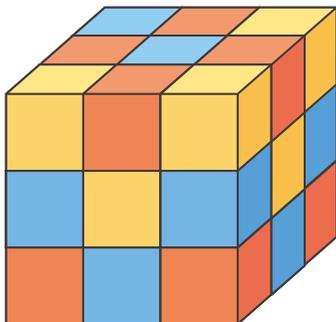
水色のブロックは何個？



A. 個

レベル50

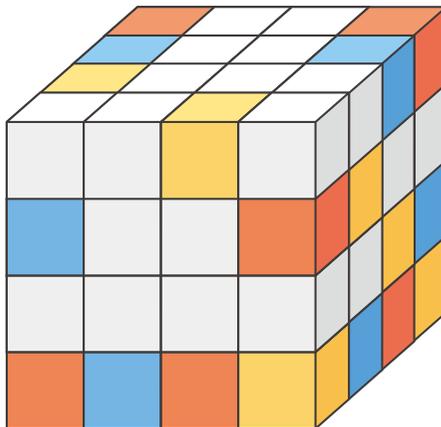
オレンジ色のブロックは何個？



A. 個

レベル99

黄色のブロックは何個？



A. 個



サムシング

サムシング③「古代発火法検定」

人類学者J・G・フレイザーは『火の起源の神話』(ちくま学芸文庫)のなかで、人類と火のかかりを3つの時代に分けている。「火のない時代」「火を使った時代」「火を起こした時代」である。言い換えれば、「火の発見」と「発火法の発見」は、人類史を二度も塗り替えた極めて重大な出来事だった。

アウト・ドア。それは、家の外ではなく、安泰の外。コンフォートゾーンの内側で冒険が眠りつくとき、ドアは現れる。しかし、思い切ってドアの外に踏み出せば、そこにはきっと人生を変えてしまうような「何か」——「すてきなサムシング」が待っている。これは、職人がアウトドアで見つけたサムシングのレポートである。



はしもと かずま
橋本 一馬
(職人)

花まる学習会教室長。家具職人だった経歴からミドルネームは「職人」。家具製作技能士、狩猟免許、ブッシュクラフトアドバイザー、古代発火法検定など、さまざまな資格や技能を織り交せた教育的アプローチが好き。キャンプ行きがち。アイス食べがち。

では、「任意に火を起こす」という、空前絶後の超絶怒涛のイノベーションは、いったいいつどこで生まれたのか。これは、いまもって謎に包まれている。ただ、そのきっかけは日常のなかでおこなわれていた工作だったのではないかという説がある。なにかの理由で木に穴を開けようとして、尖った木の棒をねじ込んでいるうちに、煙が上がり、熱が発生するのに気づいた、というわけだ。つまり、原始的な火起こしとしてよく知られる「キリモミ式」は、人類が最初に火を生み出したとされる、象徴的な発火法だと言える。じゃあ、人類のたしなみとしてキリモミ式ができるようにしておいた方がいいじゃん。

そう考えて行き着いたのが「古代発火法検定」である。これは、原始技術研究の第一人者・和光大学名誉教授の岩城正夫先生(95)が、ご自宅のガレージで年に2回開催している、非常にアカデミックかつマニアックな検定だ。検定内容はシンプルながら過酷で、摩擦開始から火が起きるまでの時間によって等級が決まる。5分以内で5級、3分以内で4級、2分以内で3級、1分以内で2級、45秒以内で1級という具合だ。

キリモミ式の火起こしについて何も知らない私は、まず岩城先生の研究会を訪ねた。高齢のため直接のご指導は難しかったが、道具や技術について教えてくれる方を紹介していただき、連絡をとって実際に会いに行った。諸先輩方に教えを請うなかでわかってきたのは、火起こしの肝は「道具」と「技術」のバランスにある、ということである。いくらいい道具を使っても技術が低ければ火は起きず、逆にどれだけ技術が高くても道具が悪ければ火は起きない。そのバランスが高いレベルで釣り合うほど、より短い時間で火を起こせるようになる。

技術の向上については、自分の身体操作におけるPDCAサイクルで完結できる。しかし、道具に関してはそう簡単ではない。検定には「天然の植物素材だけを用いた道具を持参しなければならぬ」という規定があり、自作しなければならぬからだ。もちろん、市販の火起こし体験セットみたいなものも購入して「持参」してもいいのだが、それで合格できる等級には限界があるだろうし、何より道具作りの学びが得られない。それに私は「職人」という名を持っているから、「買ったんですってよ、職人なのにね」みたいなことになることは避けたい。まあ、単純に道具作りへの好奇心から作るのだけれど、ドアの外に出るといのは、つまりそういうことだ。

さて、火きり板として優秀な杉の板はホームセンターでも手に入るのだが、火きり棒として最適な「空木」という木は簡単に手に入らない。売っているのは園芸用の苗くらいだ。さすがに木になるまで待ってられないよ？ ではどうするかというと、山に採集に行く。しかも、で

きるだけ曲がりがなく、適切な太さと長さを備えたものを探す必要がある。果たして手に入るかどうか。不安を胸に山へと向かった。火起こしの道は、思った以上に遠い。

花まる学習会 橋本一馬

続きはこちら！



カートリッジ式の先端



シャフトのグリップを手加工



選別と乾燥



空木の採集

※次回は1月号に掲載予定です！ どうぞお楽しみに！

学校の先生とあわないようで、学校でのトラブルが増えてきました。うまくいかないことがあると自分のなかで処理できず、友達にも手を出してしまうようです。どのような声かけがいいのか、根本的な解決にはならないのですが、サポートの仕方を試行錯誤しています。学校で安心して過ごしてもらいたいのですが、親として見守るしかないのでしょうか。



かにえ あやこ
蟹江 絢子

東京の大学病院にて児童精神科医として臨床に携わる傍ら、妊産婦やアスリート、神経発達症、精神疾患を対象とした認知行動療法の研究を行う。VRやアプリを活用した認知行動療法のプログラム開発にも取り組み、精神医学・心理学の啓蒙活動を一般の方や教育業界向けに展開。二児の母としての経験も活かし、親としての自線で日々の生活や子育てに役立つ情報を発信中。

「友達に手を出してしまう子」をどう支えるか

学校で先生とうまくいかない、思い通りにならない手が出てしまう——そんな日々が続くと、親としても心配になりますね。こうしたケースでは、学校からの連絡が頻回になり、保護者の方も心をすり減らしてしまうことが少なくありません。本人やご家庭、先生ができることのヒントをお届けします。



「手が出る」行動の背景を理解する

たとえば子どもが友達を叩いてしまうとき、その背景にはさまざまな感情が隠れています。

- ✓ 「言われた言葉を受け入れられなかった」
- ✓ 「思い通りにいかず悔しかった」
- ✓ 「自分を否定された気がした」
- ✓ 「かまってほしかったのに無視されたと感じた」など。

感情を言葉にできると脳が働き冷静になれますが、「ざわっとした」「もやっとした」など感覚だけだと、「叩く」という行動で表してしまう場合もあります。そのようなときは、気持ちを頭のなかで言葉にする練習が必要です。

「きっかけ」を減らす工夫

叩く場面を減らすためには、そもそも「叩いてしまう前」に自分でその場を離れたり、落ち着く時間を確保したりといった工夫が役立ちます。私はよくお子さんにこう伝えます。

「『ざわっ』としたら、『あっ、ちょっと待って！』って言って、トイレでもどこでもいいから一旦離れよう。『逃げるが勝ち』っていう言葉もあるくらいだから」と。

このように“感情のクールダウン”の習慣を身につけることで、衝動的な行動が少しずつ減っていきます。

また、先生や周囲の大人が、「叩くきっかけになりやすい子」との距離を配慮したり、刺激の多い時期（テスト前、行事前など）の対応を調整したりすることも、有効な支援になります。

周囲の対応も見直す

叩いた直後に大人がすぐ叱り、謝罪を強いると、「自分の気持ちは聞いてもらえなかった」と感じてしまう子もいます。また、「叩けば注目される」と学んでしまうと、無意識のうちにその行動が増えてしまうこともあります。

そこで大切なのが、「叩いたことで損をする経験」を積むことです。たとえば、「友達と一緒に遊ぶ時間が減る」「楽しい活動に参加できない」といったことになると、叩く行動が減る可能性があります。

謝り方も、練習が必要

「謝らせる」のではなく、「謝れるように導く」という視点が大切です。謝罪の基本的な流れは次の通りです。

- ①「声をかける」②「相手の気持ちを理解したことを伝える」③「自分の事情も伝える」④「今後どうするかを伝える」
- たとえばこんな言い方があります。「ごめんね。痛かったよね。言われたことが違うんだと思って、叩いちゃったの、ごめんね。傷つけるつもりはなかったんだ。今度はちゃんと言葉で伝えたり、離れたりするようになるね」
- 子どもなりの言葉に置き換えて、一緒に練習してみるのもおすすめです。

親としてできること

ご家庭でのサポートとしては、「心の状態はどうか？」と、子どものイライラ度や不安度に目を向けることが大切です。

また、担任の先生が変わるタイミングで、「ルールに厳しく融通がきかないところがある。思い通りにならないと怒りが咄嗟に出やすい」などと伝えておくことで、対応の質が変わることもあります。

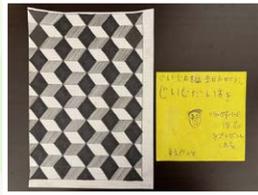
頻回に手が出るといった場合、子どもが学校で安心して過ごすためには、家庭と学校が「チーム」になり同じ方向性をもって支援することが必要です。

叩いてしまう背景にある気持ちに言葉が与えられると、気持ちに折り合いをつけやすくなります。周囲ができる工夫をしつつ、かかわりながら成長を見守りましょう。

こうのすけさん(東京都)



作品づくりのきっかけは、大好きな祖父への誕生日プレゼントです。
「いまでもらったことのないびっくりするようなプレゼントをあげたい！」といういろいろ考えて、「そうだ！トリックアートにしよう！」と決めました。方眼紙に定規で測って目盛をつけていく。目盛同士を定規でつないでいく。地道で時間のながくとも根気のある作業でしたが、あきらめずに下書きを完成させました。ドツと疲れが出て、見ていると目が回る～とのことでお風呂休憩したあとに塗りつぶしの作業をしました。真っ黒に塗るところ、斜線を引いていくところ。これもまた地道な作業でした。完成した作品を誇らしげに見せてくれたあの笑顔に成長を感じました。誕生日会で祖父に自慢げに、でも照れくさそうにプレゼントを渡す姿もどこかお兄さんになったなと感じました。



Rinせんせいの
りんごの木
あなたのじゅうを
表現しよう

「あなたは どうしたい？」
自分のことと向き合ってきた
子どもたちの作品に、
Rin先生が鑑賞のご褒をそえます。



Rinせんせいよ!

紙と鉛筆だけで見ている人に錯覚を起こさせるトリックアート！私も見ていて吸い込まれそうになりました。
「大好きなおじいさまを驚かせたい」というモチベーションで、少々困難なものにもあきらめず粘り強くやり抜いてとうとう完成させてしまう！といったことはよくあると、特に高学年の子どもたちを見ていて感じる事です。大切な人を喜ばせたい、幸せにしたい、愛を伝えたいという、人間の根源的な喜びというものがあるのでは。それにしてもこれだけのものを完成させる集中力は、誰かに言われたからやるのではない、こうのすけさんの自己決定の先に生み出される作品だからこそですね。

ほのかさん(千葉県)

保育園の石の制作※をYouTubeでみて、娘もやりたい！となり楽しみました。『はまべにはいしがいっぱい』(好学社)の絵本も気になって見ていました(一緒に図書館で借りた『海のアトリエ』(偕成社)という絵本も何度も読んで、世界をさかさまにみる、という場面が特に気に入っていてよく真似しています笑) 絵の具を使ったらデカルコマニーもやりたくなったようで、半紙や切り絵で制作をしたあと、いろいろな紙に色水を垂らし吸い込んでいく様子を観察することに発展していました。

『きんぎょがにげた』(福音館書店)のきんぎょを縫ったり、科学館のワークショップでつくった紙コプターを家にある材料で工夫してつくったり。家の裏の林でカブトムシとクワガタを見つけ、卵を産ませたい(と張り切っています。私は子どもの頃カブトムシを育てたことがないので、娘の好奇心のおかげで、私も観察、発見を楽しませてもらっています)



Rinせんせいよ!

Rinせんせいの保育園での出張授業の動画を見て、創作する子どもたちから刺激を受けて家でも創作したんですね！「石のアート」から派生して、何度制作してもその時々自分の視点が意識できておもしろい「デカルコマニー」へも発展。どちらの作品群も「こうしてみたらどうだろう？」という思考実験の跡が伺えます。やりたいことを追求できる豊かな時間。絵本からも刺激を受けて、さらに創作へと発展していくほのかさんの様子は、日常すべてがアートそのものである幼児期の美しさに満ちていますね。ちなみにレオ＝レオニの『はまべにはいしがいっぱい』は、幼児期の子どもたちの想像力を刺激してくれるおすすめ絵本。紹介してくださった『海のアトリエ』もありのままを受け止めてもらえることの豊かさが伝わってくる素敵な絵本でした！(アトリエラジオ#205でも紹介しています)



保育園の石の制作: <https://youtu.be/zUeLp6cFUg>

今日のARTレシビ

【Rinせんせいがつくってみたいよ】

キャンドルホルダー①
Candle holder
<https://youtu.be/9gYr6VNYjus>



キャンドルホルダー②
布編おまげの創作動画
<https://youtu.be/e9xIQk03VBI>



つくり方を
動画で
見てみよう



『光のアート
キャンドルホルダー』

ジャムなどが入っていたガラス瓶をリサイクル。炎を灯すことのできる、光と影がゆらめくアート。創っているときには想像できないこの創作レシビならではの感動が起る瞬間は、夜になってのお楽しみ。
「作ってみたい動画」では、マスキングテープを使ったり、布のハギレを使ったりしています。Rin先生は古い切手が好きなのでそれも貼って見ましたが、みんなが好きなものを貼ったり描いたりしてみてもいいですね。和紙を使ったキャンドルホルダー制作は、11月の Atelier for Kids でもできますよ。

- ・ じゅんぴするもの
- ・ 空き瓶 ・ 貼りたいもの ・ ポンド
- ・ ティラライトキャンドル

みんなの
おうちART作品を
待っています！
・ レシビ部門
・ じゅう部門

Rinせんせいに
おくってみよう！



こころと頭を同時に伸ばす
幼児期の子育て

Rinコラム

72

わからないときに
踏みとどまれる力

—深い安心はどこにあるのか

「幼児期に非認知能力を形成することは重要だ」ということは世間でも知られていることです。

そして誰しもが、「わが子に自分らしい人生を選んで、幸せになってほしい」と願っているでしょう。

ではいったい、私たち大人がどうあれば、子どもたちが学ぶ意欲をもち、自分らしさを大切にできる人になっていくのでしょうか。

子どもたちを見ていて、「伸びる子と伸びない子の違いはなに？」と問われれば、それは「わからないところで、踏みとどまり、考え続けられるかどうか」にあると感じます。

わかったときの喜びを知っていて、答えを先に言われたらつまらない、と思っている子は、「自分で考えたいからヒント言わないで」と言い、「もっと難しい問題やる?」と聞いたときに「やるやる!」と答えます。

彼らは、「正解かどうか」で評価されるのではなく、「挑戦したこと、考えたそのプロセス」をいつも讀まれた子たちです。「わかった!」ときの楽しさを、「発見した!」ときの喜びを、「感動した!」ことの共感を、たくさん味わっているかどうかが、です。

なぜアートを通して非認知能力(自尊心や向上心、結果として学びへの意欲)を高めることができるのか。

それは、創作は自己決定の連続であり、その先にある作品(自分自身)を丸ごと認めてもらうことの繰り返しだから。

花まるの年中・年長コースで最も大切にしていることと同じです。

自分の個性を強みとしてポジティブに捉えたり、ほかの子のいいところを見つけて、相手を見下したりするのではなくお互いを対等な関係として認め合っていくには、「必ず自分のなかに答えはあって、それを大切なものとして扱ってもらえた」という体感、「自分は自分で良いのだ」と思える感覚が必要だ。

幼児期に、「自分はOKだ」と信じられる感覚を身につけておくと、将来何かのトラブルやストレスがあつたとしても、粘り強く対応することができるのです。

私自身が幼児期に、「少し変わっている私の性質を否定されなかった、応援してもらえた」と捉えられたある出来事について、お話しする機会がありました(※)。実はそのエピソードは、母から聞いた話でも、自分が覚えていた話でもありません。母の直筆で残された幼いわたしへの眼差しや、ときに反省、おもしろエピソードが書きとめられた園時代の連絡帳が、教えてくれたことでした。

自分とは何者か。そんな問いを見つめる頃にひとりよくやっていた習慣。それは、幼い頃の写真アルバムと連絡帳を見返すことで

した。床に座り込んで大きなアルバムのページをめくり母の字を読む。私は何を確かめたかったのだろうか。

赤裸々に綴られた、母と当時の先生の、連絡帳を介したそれぞれの自己対話の跡。それは大人も不完全な一人の人間であつて、書く行為を通して人は考えるものなのだ、という、当たり前だけれど大切な、人生における羅針盤を授かっていたのだといまならわかります。

覚えていなくても、自分がどれだけ愛されてきたのかが実感できる。思春期の私にとって、それらは心のよりどころだったのでしょう。

子どもたちにとって、「自分には居場所がある」という深い安心感をもたらすものは、もしかしたら過去にすでにあるものなのかもしれません。

人生における「わからないこと」に立ち向かうときに、自分で決めたことを信じ、踏みとどまって考え続けられるかどうかは、「わたしは愛されていた」という深い実感の上にあるように思うのです。

Rin (井岡由美)

※主に年中・年長コースの保護者を対象に、冊子「いちねんせいになるまえに」では語っていない、とても大切なことについてお話しした動画配信は、こちらからご覧いただけます。

動画は
こちら



11月の Atelier for KIDs



土佐和紙de
キャンドルホルダー



お申し込みは
こちら!

申込締切
10/31(金)
19:00

対面クラス

11/16 (日) 10:30~12:00

@お茶の水花まるラウンジ

対象 年長~中学生
定員 30名(予定)
参加費 1名3,850円(税込)

おうちアトリエクラス

素材セットとおたよりがご自宅に届き、好きなタイミングで制作をします。LINE公式アカウントのやりとりにて、鑑賞会もおこないます。詳しくはHPをご覧ください。

参加費 1名3,300円(送料・税込)



Rin (井岡 由美)

花まる学習会取締役、「ARTのとびら」主宰。児童精神科医の稲垣孝氏とともに、心を病んだ青年たちへの専門的な対応に専心。花まる学習会年中・年長向け教材開発に携わり、冊子「いちねんせいになるまえに」では、幼児期に伸ばした能力や感性の教育について論じる。著書に『こころと頭を同時に伸ばす AI時代の子育て』(実務教育出版)ほか。

RinせんせいのSNSなど
すべてのリンクは
こちらから▶





花まる教室長がお届けする
子育て奮闘記

花まるリビング

50

勝谷里美

花まる学習会の教室長を担当しながら、花まる学習会や公立小学校向けの教材開発や、書籍出版に携わる。現在は、小5・小3・年少の母として子育てに奮闘中。著書に『東大脳ドリルこご伝える力編』『東大脳ドリルかんじ初級』『東大脳ドリルさんす初級』（学研プラス）ほか



待つ！

用事・指示・命令ばかりになっていないか？

ある夜。私の喉の調子が良くありませんでした。明日も仕事で結構喉を使うしどうしようかな、と悩んだ結果、子どもたちに「今日の夜は、ママは喉が痛いのので、ジェスチャーしかしません」宣言をしました。困ったら相談にのるけれど、基本的には自分たちで考えて動いてね、と。

小5の長女はまったく問題なし。困ったら筆談もできますし、基本的に自分のやりたいことをやりたいようにのびのび過ごしていました。

小3長男は、少しとまどい気味。普段は「お風呂に入ったら？」「そろそろ宿題の時間だよ」と私が声をかけているからでしょう。それでも「ママはしゃべれない、自分が動かなくては」という危機感をもったのか、遊ぶだけではなく寝るまでの必須タスクにも、予想以上にすんわり取り組んでいました。

そして、年少の次女。当たり前のように普通に話しかけてきます。その無邪気さがかわいい反面、返事をするのなかなか辛い。ただ、次第に「これも新しい遊びだ」と感じたようで、身振り手振りやお絵かきクイズでやりとりを楽しむことができました。

今回、怪我の功名だったのは、私自身が「普段いかに子どもたちに指示ばかり出しているか」に気づけたことです。

以前、花まる学習会の進学塾部門スクールFCで国語を担当する仁木の講演で聞いた「普段の親子の会話が、『ジネストーク』（用事・指示・命令）ばかりになっていないか」という問いを思い出しました。

無意識のうちに、「次はこれして、あれして……」という用事や指示ばかりを口にしてきた自分を反省。時と場合にもよりますが、口をつぐみ、距離を置いて、子どもの自然な動きを見守ることも大切でしょう、と思えた時間でした。

すぐに答えてしまっていないか？

そう思った矢先、「あー、私、また指示を出してしまっているかも」と気づかされた出来事がありました。今回は、わかりやすい「指示」ではなく、見えない「指示」ともいえるようなもの。

このコラムでも何回か紹介している「1000かいだてのいえ」（偕成社）を、次女に読み聞かせていたときのことで。

この絵本は縦に長い見開きで、10階ごとに部屋が描かれ、部屋から部屋へと階段やはしごなどのルートがあります。ほんの一例ですが、タコの部屋では吸盤の着いた足が階段代わりになっていたり、ラッコの部屋では海藻がはしごになっていたり。

次女は、迷路をなぞるように、指で道を追いながらその本を読んでいるのですが、割とすぐに「ねー、この部屋の階段はどこ？」と尋ねてきます。そして、私は、すぐに「ここだよ」と答えてしまっていたのですが……。「大人の視点で『ここ』と決めてしまわなくてもよいのでは？」と気づきました。

そもそも、いくらでも想像を広げられる絵本なのだから、正解はない。「ここを通して次の部屋に行けるかな？ わくわくー」を子どもと一緒に楽しめばいいし、「ママはここだと思っただけで、どう思う？ ほかにあるかな？」と、想像を促す質問を投げかけてもいい。

すぐに、いわゆる「答え」に手を届かせようとすること、これも、いわゆる指示の一種かもしれないなあ、と、またまた反省でした。

とはいつても、反省してばかりでは、結局子どもにその重苦しい雰囲気も伝わってしまうでしょう。大切なのは、目の前の子どもが躍動しているか。子どもの躍動感にアンテナを張って、声をかけていけたらよいな、と改めて思いました。

花まる学習会 勝谷里美



『小学生の全教科の成績がアップ！
国語の力は親で決まる』
高濱 正伸 著
(カンゼン)

小学生の全学力をアップさせるためには、どんな教科よりもまずは国語！ ということで、「親の言葉と接し方」の具体例がたくさん掲載されています。すべて実践しなくては……だと、子どもとの会話が苦しくなってしまうと思うので、まずは、できそうなところをちょっとだけやってみようかな、という気持ちで、のぞいてみてください。



『おでかけのまえに』
筒井 頼子 作
林 明子 絵
(福音館書店)

おでかけの準備をがんばろうとするあやこちゃん。お弁当を詰めようとしてほぐちゃぐちゃにしてしまう。荷物は引っ張り出す。お化粧を塗りたい……とてんやわんや。わが家と同じことが起きると、私のイライラMAXで重苦しい雰囲気のままお出かけになりそうですが、「あらあら」といった軽やかな対応をしているお母さんが素敵です。自分で考えて、行動に移しているあやこちゃんにも拍手！

Masahiko
白杵 允彦
(ウツキー)
Usuki問*
ウツキーの自由研究③

少し前に、久しぶりに次男(4歳)の幼稚園参観に行ってきました。先生の話を生懸命聞き、工作などを楽しむ息子を見て、家の外ではこんなに頑張っているんだなと、胸を打たれました。そして、夕方になると、機嫌が悪くなり、大声で泣きわめくわが子も愛おしく思いました。

ふと、どうして次男には、こども寛容でいられるのだろうか?と疑問がわいてきたのです。「ぎっと、お兄ちゃんの成長を見てきたので、いまのわが子は、いまだけだと知っているから」という答えが浮かびました。

その一方、長男(小4)に対してはというと、ついいろいろと言ってしまうます。

「宿題やるうか?」から、プラスアルファの課題まで、隙間時間がちよつとでもあると、「やるうか!」と声をかけ、花まる流で、「10・9・8・7……」とカウントダウンし、息子の行動をどんどん促す私がいきました。

しかし、ある日ふと「本当に、これいいのだろうか?」という葛藤が生まれました。そもそもわが子にとって、小学校高学年がどんな時期であってほしいか?と考えたとき、「没頭する日々」という答えが出てきます。

子どもが伸びる瞬間は、主体的に取り組むときです。遊びでも勉強でも、自分で決めて取り組む瞬間、主体的になります。さらに、夢中になるときこそ、没頭するときこそ、一番伸びると感じます。そこで、「できるだけ、言わない」と心に決めて、長男と向き合うことにしました。

ある日の夕飯後、長男を観察していたら、YouTubeを見はじめました。「宿題が終わっていないよ」と言いたくなる自分を抑え、静観することに。チャットと画面を見ていると、終電後の大崎駅の様子を見ていたのです。気づくと、私も息子の横にいました。そして、酔っ払いが駅員さんにおもしろおかしく運ばれる様子などを見て、一緒に大笑いしました。「そういうえは、私も小さい頃、母と一緒にテレビを見て笑うのが好きだった

たなど、そのとき思い出しました。その後寝る直前に、思い出したかのように宿題をやり出す息子の姿がありました。

また、ある日、上野東京ラインでスタンブラリーをやっていることを知った長男が、「パパ一緒に行こうよ」と誘ってきたのです。「いいね!」と言って、次男と3人で行ってきました。その夜、一生懸命レゴで何かを作り出す息子。一時間ほどして、「できた。常磐線のグリーン車!」と見事な車両ができあがっていました。

そして、空に星がたくさんあるのに気づいた夜には、「星を見に行きたい」と言い、近くの公園に長男と二人で行きました。天にかざすと星座がわかるアプリで、「あれが火星で、あれが木星か、そして、オリオン座……」など、肉眼で見える星とアプリの星座をずっと見比べていました。

また、最近では、「ぼく、将来タイムマシンをつくりたいんだ」と、夢を打ち明けてくれたのです。その後、「だから大学の物理を教えて!」と言ってきました。「じゃあ、相対性理論を学ぼう」とYouTubeにある相対性理論に関するおもしろ動画を二人で見ました。爆笑しながらも論理をなんとなく理解した息子は、一生懸命、妻に説明をしていました。

これら長男の様子を見ていて、彼が夢中

になれる「間」を大事にしたいと思うようになりました。

それと同時に、息子たちには、世の中のすべてのことに意味があり、この世界は、おもしろいことで満ちているということを伝えたいと考えています。

「あれやったの?」「宿題は?」など、言わなければならぬ瞬間もあります。しかし、わが家の場合、先まわりして「これをやったほうがいいのでは?」と親が言いすぎてしまっているという気づきがありました。どうしても言わなければならぬときは伝え、そうでない場合は、グッと抑え、わが子が何かに夢中になる「間」をつくるうと思っています。いまのわが子は、いまだけ。みなさまは、お子さまにとって、いまがどんな時期であってほしいですか? 教室でも、子どもたちが夢中になる・没頭する「間」をつくりながら、向き合ってみます。

花まる学習会 白杵 允彦



～「がんばること」の意味とは……？～



『びりっかすの神さま』

おかだ じゆん 著
岡田 淳 著
(偕成社)

小学4年生で転校生の始が教室の中で見た、小さな天使のような不思議な男の人。それは、クラスで「びり」になった人でないと見ることでできない「びりっかすさん」でした。やがて始はびりっかすさんと交流するようになりますが、クラスのほかの子もたちもその存在に気づいてしまい……。他人と競争する意味、「がんばること」で見えるものなど、大人にとっても深く考えさせられるストーリー。作者は小学校の図工の先生を務めていたこともあり、そのときの体験をもとにした物語を多く著しています。



『アンジェリーナはバレリーナ』

キャサリン・ホラバード 作
ヘレン・クレイグ 絵
おかだよしえ 訳
(講談社)

バレエが大好きなねずみのアンジェリーナは、いつでもどこでもくるくる踊ります。勉強もお手伝いもしないアンジェリーナに困ったお父さんとお母さんが考えた名案とは……？ まさに「夢中になり勝る」を体現したアンジェリーナの姿が魅力。彼女を見守るお父さん、お母さんも印象的で、「がんばれ」と言われなくても心から夢中になれるものをもつことの素晴らしさを感じられる、珠玉のロングセラー。



『問題。以下の文章を読んで、家族の幸せの形を答えなさい』

はやみ かずまさ 著
早見 和真 著
(朝日新聞出版)

ことし ほん やたいしやう さくひん
今年の本屋大賞ノミネート作品『アルプス席の母』(小学館)(こちらも非常におすすめ!)で話題の著者による、胸熱くなる渾身の一冊。中学受験を通して、時に困難な現実にあがき、もがきながらも自分たちの「幸せの形」を模索し続ける主人公・十和たち家族。誰のために、何のためにがんばるのか。家族の本当の幸福とは——？ 物語の途中で十和のお父さんが、終盤とある作家のキャラクターが放つ台詞が、確かなヒント(「答え」ではありません)を与えてくれます。



『海をかつとばせ』

やました へい 作
山下 明生 作
しんぷう はん 絵
杉浦 範茂 絵
(偕成社)

なつ たいかい なん しゆつじやう しやうねん
夏の大会に何としても出場したい少年
ワタルは、海辺での特訓を決意。しかし波打ち際で何度も一人で素振りをしていると、突然不思議な少年が現れて一緒に練習することに。やがて周りからはワタルを励ます歓声も聞こえてきて……。『いいとも! すきなだけ海をかつとばしにこいよ!』力あふれる言葉の数々と、大胆かつ鮮やかなイラストが鮮烈な印象を与えます。立ち止まったとき、行き詰まったときなどに、気持ちを後押ししてくれる一冊。



『青春サプリ。自分らしくあるために』

あおき みほ 著
青木 美帆 著
おひの けいぞう 著
近江屋 一朗 著
ひびの ぎやうざう 著
日比野 恭三 著
たなか ゆうこ 著
田中 夕子 文
くじやう 絵
くじょう 絵
(ポプラ社)

エピソードはすべて実話、登場人物はすべて実名、そしてすべてが「神回」! 学校選びにもうってつけの「部活の最高の教科書」シリーズ第7巻。今回取り上げられているのは、全国的な強豪チームである履正社高等学校の女子野球部や、コロナ禍でも目を見張るような精巧なジオラマを作成した共立女子中学高等学校の地理歴史部など5つの部活。自分の底力や仲間との絆を信じて挑戦し続ける若者たちの姿を通して、是非「自分自身の進む道」へと思いを馳せてみてください。

※品切れ中等で、書店ではお求めいただけない場合があります。図書館等で探してみてください。



高橋 大輔
(タイプ)

花まる ころん

いいじゃない、人間らしくくて

今月の「サボテン」(小学生コースの計算教材)は、通過儀礼について考える機会になりました。4年生の単元は「四則計算・()を使った計算」です。パッと答えを出せる問題である一方、答えを写したとしても違和感なく見えてしまう問題です。

4年生男子のSさんは、サボテンの宿題忘れで居残りが決定。最初は黙々と取り組んでいたのですが、気づけば答えを写していました。ふと、私も同じような時期があったな……と思いつきました。

同じく小学4年生の頃、カンニング癖がついてしまったのです。私が意識していたのは「母」です。学習の難易度が上がり、テストの点数が振るわなくなりました。そして、70点「以下」のテストが「がんばれBOX」という名の「しっかりやりなさい」というプレッシャーを感じ

させる箱にどんどん溜まる日々。3年生までは何でも「がんばったね」と受け止めてくれたのに……。その結果、私が選んだのがカンニングでした。当時の担任だった星先生は、そのことに気づいていて、母親との二者面談で踏み込んで話をしてくれました。そこで背景が明確になり、BOXが撤去されたところ、驚くほど心が軽くなりました。母に認められたい、ただただその一心でしたが、想いの方向性がちよつとずれてしまったのです。

そう、私もしっかり脱線しています。ただし、これは、通過儀礼。いまならそう断言できます。自分の意志で方向性を正せることもあれば、きつかけが必要なこともあります。もしその分岐に立ち会えたなら、灯台のように進むべき道を照らす存在でありたい。過去の自分が星先生にしてもらったように。

話はSさんに戻ります。一対一で話をします。事実は覆らないのですから、まずは答えを写したことを「認める」というスタートラインに立つところから。このようなケースに何度も立ち会ってききましたが、私の答えはひとつ。待つのみです。無音の時間が流れたあと、心のエネルギーを振り絞って、静かに首を縦に振りましました。そして、答えを写した理由も教えてくれました。面倒くさい、サツと終わらせたい、早く帰りたい。こうして心に蓋をすることなく、率直に想いを吐露でき

れば大丈夫です。

その次に訪れるのが、自己決定の場です。すべてやり直すことを自分で決めました。大粒の涙を流しながら。

ここで「ごまかしちゃいけない、ズルをしちゃいけない」、そんな真つ当なことを伝えるつもりはありません。それは自分自身が一番よくわかっているはず。だからこそ「いいじゃない、人間らしくくて」「ここからじゃない、がんばりどころは」「こんなメッセージを届けました。

「サボテンは、人生の縮図」ふと、そんな言葉が頭に浮かびました。

日付を書く。今日という日をしっかりと人生の中に刻むこと。タイムを計る。その日の自分がベストを尽くしたかどうかを自問できること。丸つけをする。毎日、新しい失敗に出会えること。

明日も明後日も継続して取り組む。失敗を成長で上書きできること。ごまかしなくなる、逃げたくなる。人間らしさを自覚し、そんな自分を愛するきっかけを手に入れること。

さて、涙の居残りの翌週。「どう？」と聞いてみると、ニコッと笑いながら「大丈夫」と言葉が返ってきました。「前と違う?」「スッキリしてる」そんなやりとりが続きます。実は、居残り翌日、お母さ

んからこんなことを聞いていました。

「涙を流しながら『何も言いたくない』と言われ、教えてくれませんでした。『パパにも言わないで!』とのことだったので『パパとママが教えなくても本当に大丈夫なの?』と聞くと『大丈夫!』と返ってきました。Sの様子から、私自身はあまり心配しておりませんでした」

4年生から高学年コースになり、4月の頃は「本当についていけるか」と心配されていたご家庭。そこから約8か月、着実に心が成長しています。Sさんの言葉の通り「大丈夫」です。

うまくいかないことのほうが圧倒的に多いのが世の常です。そのなかで「できない、わからない」を肯定していくには強い意志の力が必要です。それはまず私たち大人側に。「できるあなた」だから大切にされているんじゃないよ。ごまかすあなたも、逃げたくなるあなたも、ぜんぶ大切。そんなメッセージを伝え続けま

花まる学習会 高橋大輔



花まるの
教室長を
紹介します!

Hanamaru Family 花まるファミリー



…オンライン

アルコ …アルゴクラブ

FC …スクールF.C

…ART

GONOU …GONOU 囲碁教室

is …All Inclusive School

まほうしつごろう じゅんぱん しょうかい たの
みんなの教室長も順番に紹介するよ。お楽しみに!



い い ざちか
伊井 祥花

東京南 東京都



おかもと ゆうき
岡本 祐樹

東京東 アルコ GONOU 神奈川県



おくら ももか
小倉 百華

神奈川北 神奈川県



おせ どりょう
尾瀬戸 涼

東京南 千葉県



くりばやし えいいち
栗林 英一

東京東 FC 東京都



ささき まさお
佐々木 真音

東京東 島根県



すずき あかり
鈴木 あかり

千葉 三重県



つだ なぎせ
津田 渚沙

東京西 東京南 東京都



とみなが まこ
富永 真子

オンライン 茨城県



はだの たつや
秦野 達也

神奈川北 アルコ 神奈川県



はるき みつゆき
春木 満之

東京南 島根県



ふじえだ しおり
藤枝 詩織

茨城 茨城県



むらた ひろのり
村田 寛典

千葉 千葉県



やなぎさわ はやと
柳澤 隼人

東京東 is 東京都



たかはま まさのぶ
高濱 正伸

○○○ 熊本県

……… リーダーネーム

……… 名前

……… 所属

……… 出身地

サマースクールや雪国スクールでお会いね!

10月の誕生花は ガーベラ

高校大学と気性の荒い人間で、いつも一匹狼でした。見かねた大学の先生が山に誘ってくださり、大自然の魅力にとりつかれました。いまでも毎週山に入り溪流で魚を釣っては上流へ移動し野営するという楽しみを続けています。熊が増えましたが、鈴と大戸と火薬のおもちゃ鉄砲と大音量が出るベルと熊よけスプレーを携帯し万全の備えて、山に向かいます。誰がなんと言おうと溪流釣り大好きです。 | 菅野うさぎ子